

受験生アンケート[私立・国立中学受験編]

受験は“学力向上に役立った”“自分の力を試せた”

受験に必要なのは「志望校への憧れ」と「強い気持ち」

株式会社栄光(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:下田勝昭)が運営する進学塾・栄光ゼミナールは、2019年1月1日(火)～3月28日(木)に、この春、私立・国立中学校を受験した受験生とその保護者を対象に、「受験生アンケート」を実施しました。

※私立・国立中学校の場合は、入学のために入学試験を受けるため「受験」、公立中高一貫校の場合は、学力検査や適性検査を受けることから「受験」という言葉が使われます。

両者を表す場合は「受験(受験)」と記しています。

[私立・国立中学受験]

- 受験を意識して塾に通い始めた時期 受験生の約半数が「**小学4年生**」
- 志望校選びで重視したこと 親子とも「**学校の教育方針・校風**」が最多
- 受験生にとって「受験」とは「**学力の向上に役立った**」「**自分の力を試すことができた**」
- 受験に必要なこと 受験生の45%が「**志望校への憧れ**」「**困難に立ち向かう強い気持ち**」
- 習い事・クラブを「**辞めずに続けた**」 受験生の約4人に1人
- 中学受験をすることを最初に考えたのは、母:48% 子ども:30%

栄光ゼミナール調べ

<調査概要>

調査対象:栄光の教室に在籍していて、2019年に私立・国立中学校を受験した受験生とその保護者

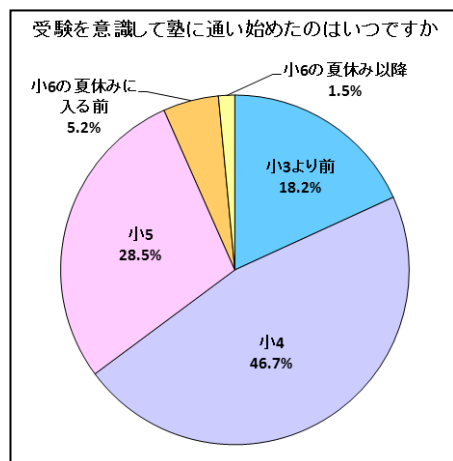
調査方法:インターネット調査

調査期間:2019年1月1日(火)～3月28日(木)

回答者数:受験生 332人、保護者 339人

【受験生】中学受験を意識して塾に通い始めたのはいつですか。

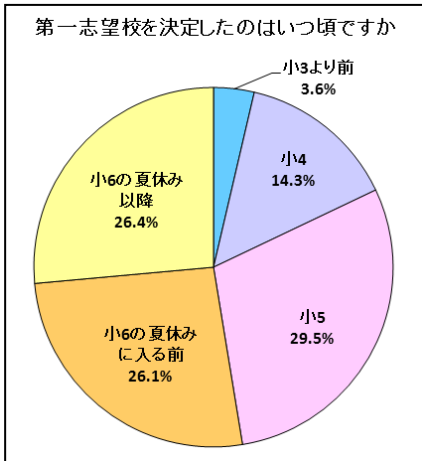
(n=332、単一回答方式)



受験生に、中学受験を意識して塾に通い始めた時期を聞いたところ、最も多かったのは、「**小学4年生**」で46.7%だった。次いで、「**小学5年生**」が28.5%だった。多くの学習塾では、小学4年生から中学受験対策のコースが開講されるため、受験生の約半数がその頃から中学受験を意識して塾に通い始めたと考えられる。

【受験生】第一志望校を決定したのはいつ頃ですか。

(n=332、単一回答方式)

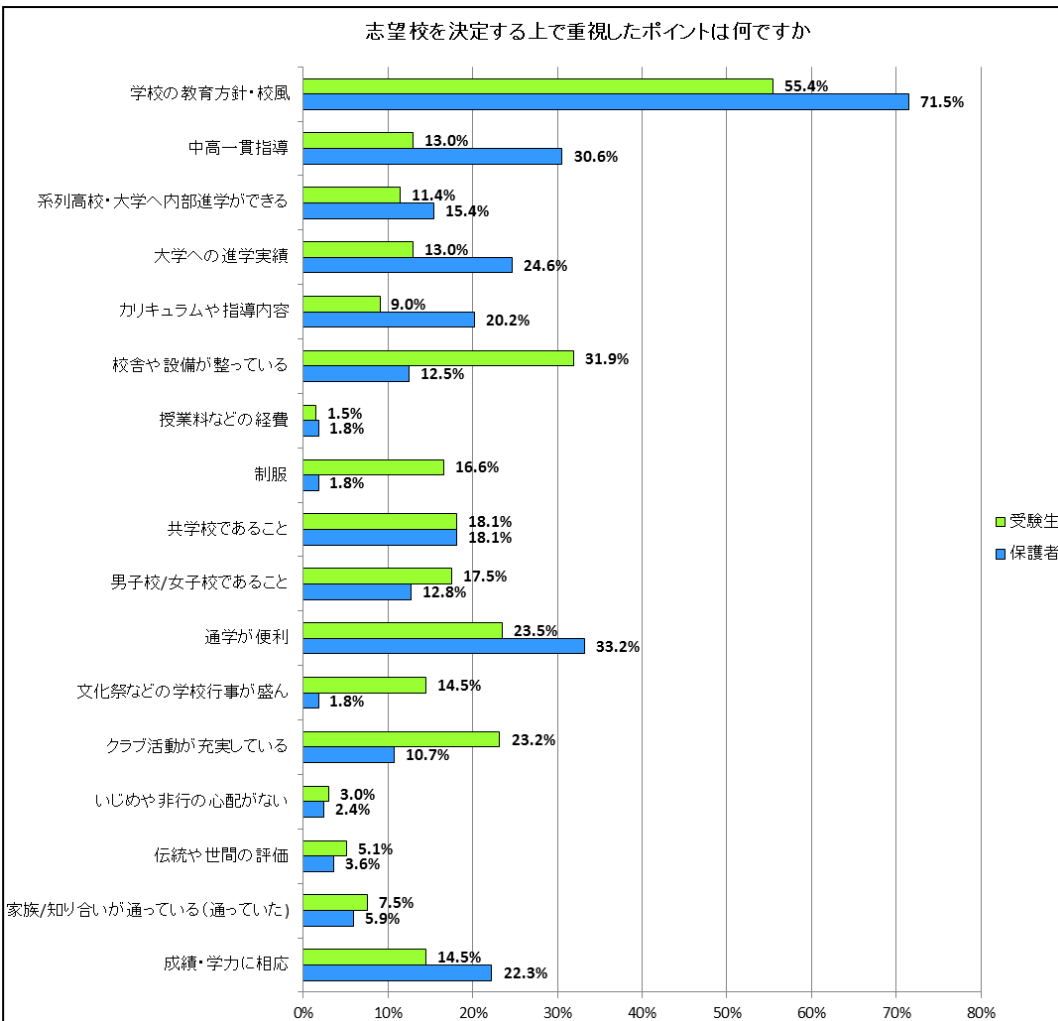


受験生に、第一志望校を決定した時期を聞いたところ、「小学6年生の夏休み以降」が26.4%、「小学6年生の夏休みに入る前」が26.1%と、過半数の受験生が小学6年生になってから第一志望校を決定したことが明らかとなった。

一般的に、中学受験の場合、実際に受験する学校を決めるのは模擬試験の結果などが始まる小学6年生の夏以降のため、そのころまでには第一志望校を決める家庭が多いのではないかと考えられる。

【受験生・保護者】志望校を決定する上で重視したポイントを教えてください。

(受験生:n=332、総回答数 942 保護者:n=339、総回答数 974 複数回答方式(最大3つまで))

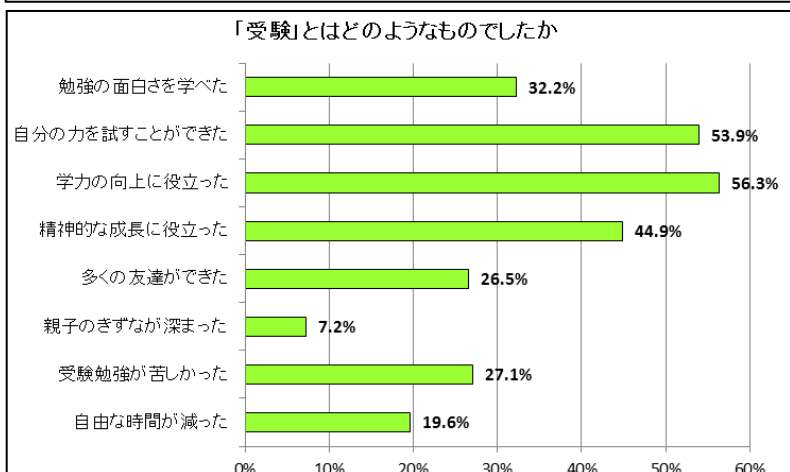


志望校を決定する上で重視したポイントを、受験生・保護者に聞いたところ、最も重視したポイントは「学校の教育方針・校風」で、受験生の55.4%、保護者の71.5%だった。

受験生が保護者よりも重視していることは、「校舎や設備が整っている」「クラブ活動が充実している」「制服」など、学校生活に関する項目が挙げられた。保護者は、「中高一貫指導」「大学への進学実績」「カリキュラムや指導内容」など、学習内容や進路に関する項目を重視している傾向が明らかとなった。

【受験生】「受験」とはどのようなものだったと感じますか。

(n=332、総回答数 942、複数回答方式(最大3つまで))

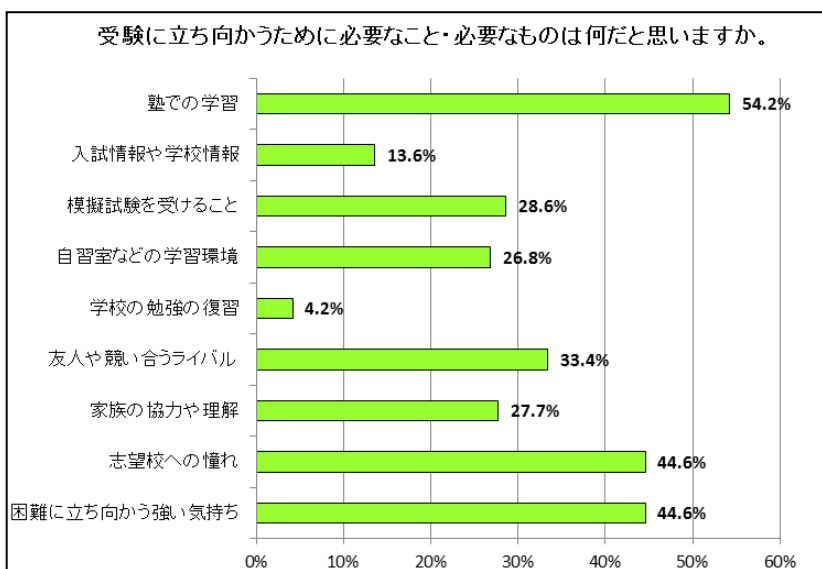


受験生に、「受験」とはどのようなものだったかを聞いたところ、「学力の向上に役立った」が56.3%、「自分の力を試すことができた」が53.9%が多かった。次いで、「精神的な成長に役立った」も44.9%にのぼった。

一方、約4人に1人が「受験勉強が苦しかった」、約5人に1人が「自由な時間が減った」と回答しており、受験生は、メリットもデメリットも感じているようだ。

【受験生】受験に立ち向かうために必要なこと・必要なものは何だと思えますか。

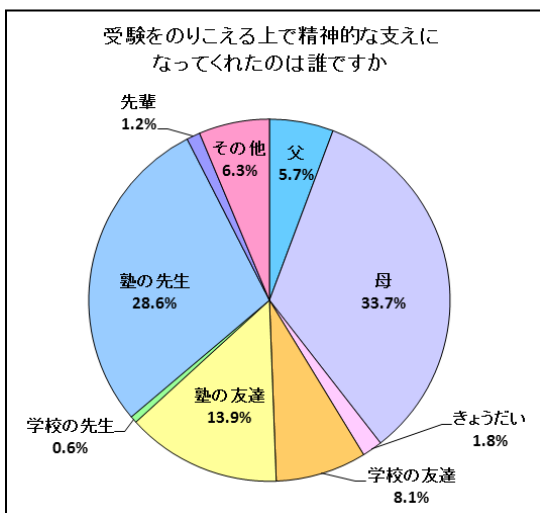
(n=332、総回答数 942、複数回答方式(最大3つまで))



受験生に、受験に立ち向かうために必要なこと・必要なものを聞いたところ、54.2%の受験生が「塾での学習」が必要だと回答した。また、44.6%の受験生が、「志望校への憧れ」と回答しており、中学受験においては学校をよく知り、志望校を決定するための「学校見学」が非常に重要であることが分かる。同率で「困難に立ち向かう強い気持ち」との回答もあり、前の設問で「中学受験は精神的な成長に役立った」と答えた生徒とほぼ同率となった。

【受験生】受験をのりこえる上で精神的な支えになってくれたのは誰ですか。

(n=332、単一回答方式)

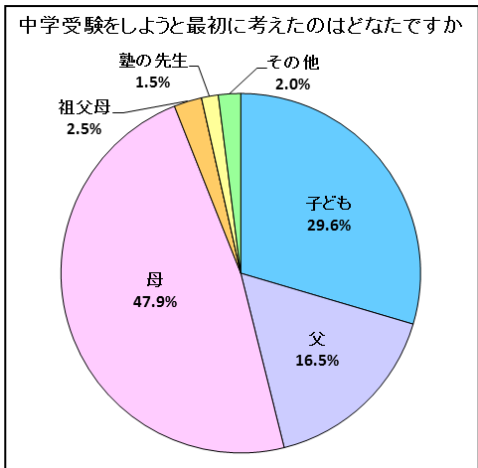


受験生に、受験を乗り越える上で、精神的な支えとなった人を聞いたところ、受験生の約3人に1人が、「母」と回答した。次いで、「塾の先生」が多く、28.6%だった。

受験生にとって、最も身近である家族の支えや、受験勉強の中で関わる時間の長い塾の先生など、周囲の大人が支えとなっていることが明らかとなった。

【保護者】中学受験をしよう(させよう)と最初に考えたのはどなたですか。

(n=339、単一回答方式)

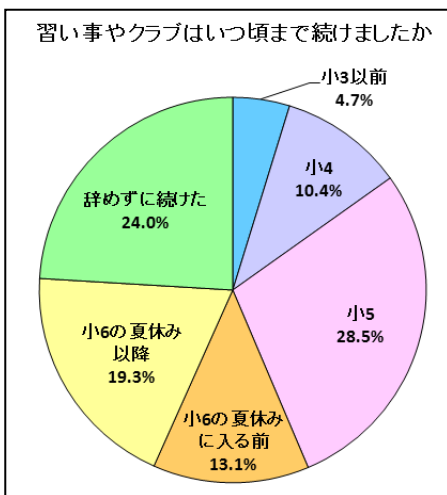


受験生の保護者に、最初に中学受験をしよう(させよう)と考えた人を聞いたところ、47.9%の保護者が「母」と回答した。次いで、「子ども」が29.6%、「父」が16.5%だった。

私立・国立中学校の受験においては、母がきっかけとなって、受験を考え始める家庭が多いと考えられる。

【保護者】習い事やクラブはいつ頃までつづけましたか。

(n=339、単一回答方式)



受験生の保護者に、習い事やクラブを続けた時期を聞いたところ、最も多かったのは、「小学5年生」で28.5%だった。

受験生になるまで習い事を続けていた受験生が40%以上もあり、また、約4人に1人が最後まで「辞めずに続けた」という結果だった。中学受験をする家庭では、受験勉強と習い事やクラブを両立している受験生も少なくないことが明らかとなった。

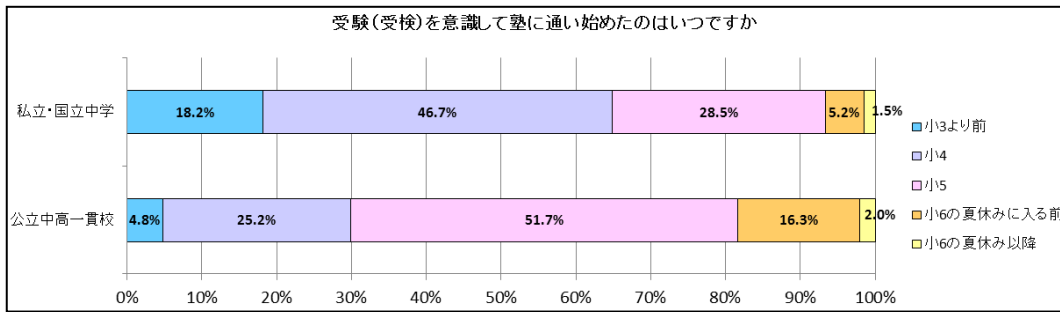
【保護者】受験期の子どもの関わりについて、どのようなことを心がけていましたか。

(自由記述方式)

- ・親子で話し合いながら、進む方向や勉強の仕方や量などを決めること。
- ・子どもの意思を尊重すること。親の考えを押し付けないこと。
- ・居間で子どもが勉強している間は、父か母がテーブルにつくよう心がけていました。同じ時を過ごす事で、「お父さんもお母さんも、あなたと同じように勉強しているよ」と、一人で頑張っている感を感じさせないように腐心したつもりです。
- ・親は送迎、弁当作りを頑張った。当日にベストな体調で挑めるよう、体調管理に気を遣った。
- ・頑張っている姿を、きちんと声にして褒めたり、励ましたりしていました。勉強一色にはせず、本人の意思で習い事を続けさせ、家族で遊びにもよく行き、メリハリをつけるよう心がけました。
- ・模試の成績が悪くても、「本番で間違えないように気を付けようね」などと前向きになれるよう接していました。
- ・親の考え方がぶれたり、親の不安な素振りを見せたりしないよう、心がけました。
- ・何としても受験するんだ、という強い気持ちを持たせました。
- ・親が一番の応援団にいること。家は、一番のリラックスできる所であることを心がけていました。
- ・子どものいろんな様子を把握し、塾の先生とコミュニケーションをとって塾での様子も共有していただきました。

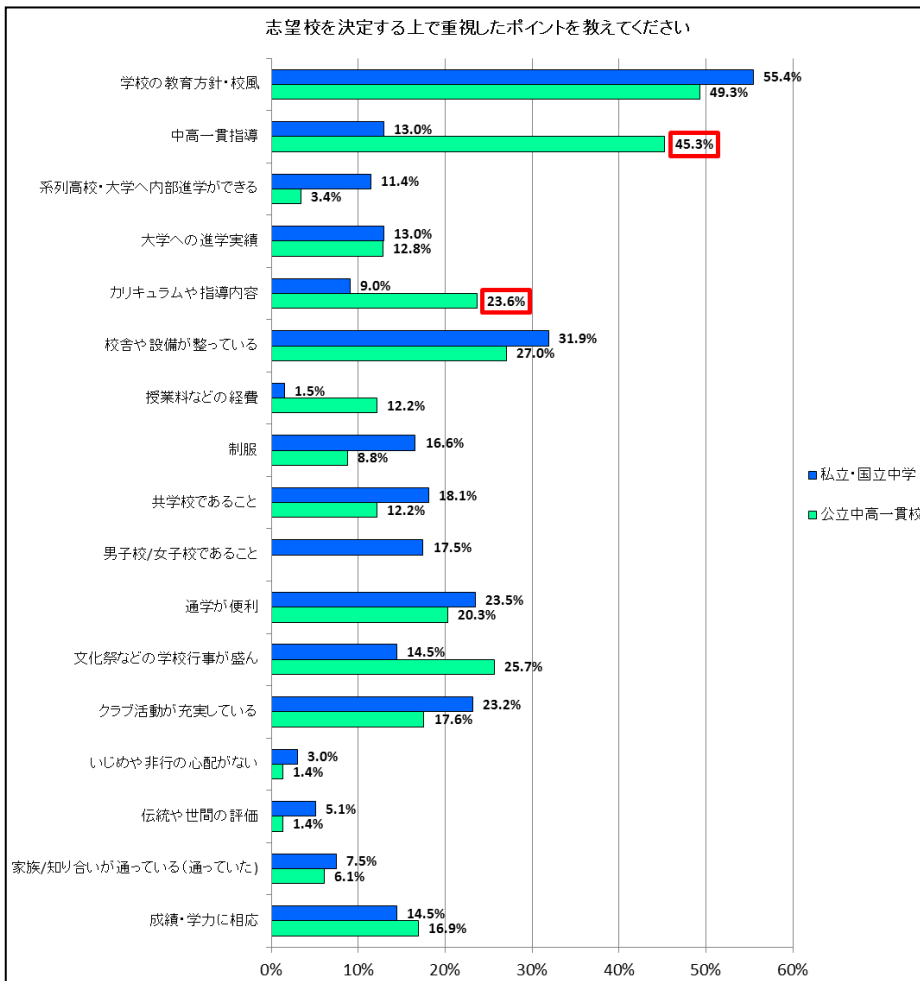
【私立・国立中学受験編】と【公立中高一貫校受験編】の比較

(1) 受験(受検)を意識して塾に通い始めたのはいつですか。(受験(受検)生)



私立・国立中学校の受験生の多くは、小学4年生から、公立中高一貫校の受験生の多くは、小学5年生から、通塾するという違いが明らかとなった。

(2) 志望校を決定する上で重視したポイントを教えてください。(受験(受検)生)

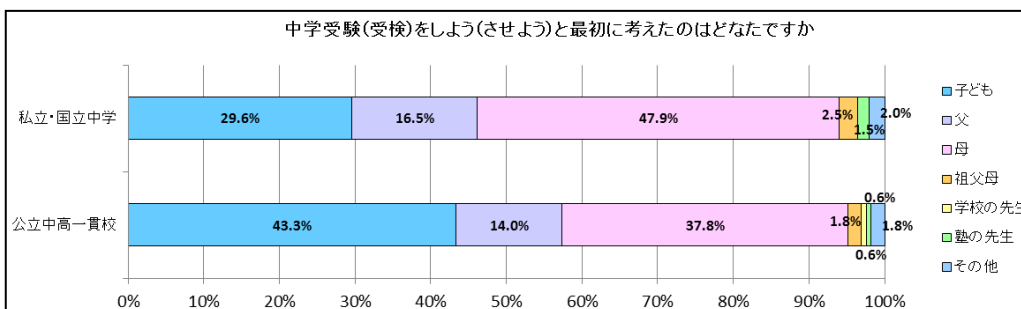


受験生が、志望校を決める際に重視したことを比較すると、大きく差がある項目は、「中高一貫指導」と「カリキュラムや指導内容」だった。

志望校を決める際、私立・国立中学校の受験生は、私立・国立中学校の中から比較検討して、志望校を決めていく場合が多い。そのため、「中高一貫指導」が前提条件となっており、比較項目にはならないと考えられる。

一方、公立中高一貫校受検の場合、地元の公立中学校と比較して、「中高一貫指導」と「カリキュラムや指導内容」を重視している受験生が多いのではないかと考えられる。

(3) 中学受験(受検)をしよう(させよう)と最初に考えたのはどなたですか。(保護者)



私立・国立中学校の受験生の保護者の多くは、「母」が最初に受験させようと考えたと回答した一方、公立中高一貫校の多くは「子ども」と回答し、受験(受検)のきっかけにも違いがあることが明らかとなった。

会社概要

中学受験、高校受験対策の学習塾「栄光ゼミナール」や個別指導で目標達成へ導く学習塾「栄光の個別ビザビ」、高校生対象の大学受験対策塾「大学受験ナビオ」等、首都圏を中心に全国 700 教室超を展開しています。生徒の学ぶ意欲を引出し、自ら学ぶ姿勢を育てることで、中学受験・高校受験・大学受験の合格へ導き、生徒・保護者の期待に全力で応えています。

そのほか、科学実験専門教室やロボット・プログラミング教室等も運営しています。

本社： 東京都千代田区富士見二丁目 11 番 11 号

代表： 代表取締役社長 下田 勝昭

設立： 1980 年7月

本件に関する問い合わせは

株式会社Z会ホールディングス広報 大久保・渡辺

電話：03-5275-1685 Fax :03-5275-1679 Mob :070-4036-1980

メールアドレス:proffice@zkai-hd.co.jp